



新規就農者の素顔	農業経営の状況（現在）
 <p>氏名：小林剛彦 住所：南あわじ市広田 年齢：45歳</p>	<p>農地：120a 施設：ビニールハウス2,000㎡ 経営内容： ハウスいちご10a ハウストマト10a 水稲70a たまねぎ40a はくさい30a、 レタス10a、キャベツ10a 労働力：本人、義父、（研修生） 出荷先：JA、直売、スーパー、観光等</p>  <p>いちご葉かき作業</p>
就農から現在まで	就農で良かった点、苦労した点
<p>大学を卒業後、阪神間でサラリーマンを経て、 1996年 阪神大震災後 淡路へ 2000年 就農 既存施設4aでいちごの高設栽培開始 2001年 ハウス16aを増設 2003年 たまねぎ、はくさい等の栽培を開始 2008年 ひょうご安心ブランド認証取得（いちご） 現在に至る</p>	<p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてが自分の思いと自己責任の中で仕事ができ、やりがいが持てる。 • 作った農産物が、直売等でおいしいと評価された時、充実感が得られる。特に子供たちに喜ばれるとうれしい <p>○苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 思ったより所得を得ることは難しいこと。 • 農業は自然相手で、特に最近は天候に振り回されるので予定通り作業が進まない。 • 夏場の草刈りが重労働である。
農業をめざした動機	後輩へ贈る言葉
<p>農外出身者であったが、以前より有機農業に興味があり、大学も農学部に進学をした。 サラリーマン生活を経て、阪神大震災を契機に、妻の実家である淡路に転居し、実家の農地を活用して以前からの夢である農業経営の実現に向け就農した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 農的生活と農業（農産物を販売して生活をする）は別なのではっきり区別しましょう。農業は簡単に食べて行くことが難しい職業であり、センスと根性が必要だと思います。 • 地道に農業に取り組む姿を周囲の農家に認めてもらい、地域に溶け込むことが大切です。 • 有機農業をしたいという人が多いですが、営業が得意で販売ルートを持っている人しかうまくいきません。まずは家庭菜園1反くらいから始めてみては・・・草引きえらいよ～